# 信仰と社会教育に生涯をかけた 本間俊平 小伝

## 希望の光をかかげて

間瀬出身、キリスト教信者、本間俊平の島根県での講演記録が大正十一年一月「神の人、本間俊平先生」と題して刊行された。約百ページの小冊子ではあったが、昭和初期までに四十六版を重ね、その発行部数は約五万部に達したという。

俊平の苦難を超えた人生体験とキリスト教徒としての徳からほとばしる熱烈な人生訓話に接して、「一人として感奮興起して新たに霊の覚醒を得ざるもののなかったのは、あゝ真に天来の声というべきものである」（神の人、序文）とまで言われ、当時の多くの聴衆を感動させたのであった。

本間俊平は、東京、東北北海道、九州、満州、朝鮮など各地におもむき、あるいは招かれ、中学生から大学生、職工から経営者に至るまであらゆる階層にキリスト教信仰を基にした人生の生き方を説いてまわった。

特に活発に講演を行なったのは、大正後期から昭和初期にかけてであった。この時期の日本は、俊平の言うように「今日は至る所不景気となった。行づまりとなった。大学を卒業しても生活する事ができなくなったと人々が苦悶している」時代でもあり、「地主と小作人の間にもかなり六ケ敷問題を起して苦しんでいて」こんな事を「毎日見つめていたのでは自殺のほかに道がなくなります」（本間著、各地に御世話になり）といったように、日本の資本主義社会の矛盾が大きくたちはだかり、多くの人々に行きづまりを感じさせた暗い時代であったのである。

昭和五年、福島県の男子師範学校での本間の講演は「生徒の中に感極まってすすり泣く者もあった」（東北講演集）ほどで、本間俊平の行く所各所にこんな情景が見られた。

失職、青田売り、娘売りなどの横行する中で、本間のかかげた光は、当時の人々になおその苦難に耐えて進む励ましの光明となっていったのである。

## 艱難の中からひらいた活路

本間俊平の伝道講話が、人々を感涙させた根本は、「深遠な哲理や斬新奇抜な学説」ではなく、彼が現実の社会で「実験し体得した」艱難をこえた体験を確信をもって述べた（神の人序文）からであった。

彼の生いたちは、不偶な環境にもめげず、終始それを乗りきる事によって、「信仰の人」「労働の人」としての人格を築いていたもので、俊平のおいたちそのものが感動のドラマであった。

俊平の伝記は多い、「郷土史にかがやく人々」（青少年育成新潟県民会議、昭和四十三年刊）の中で青木重孝により青少年むけに紹介されているのをはじめ、「本間俊平評伝」として日本宣教選書九（昭和三十五年刊）に、「私の観た本間俊平先生」として工学博士、佐藤定吉が本間の講演集の序文に（昭和六年）更に大正二年（一九一三）本森鷗外が本間俊平の人生体験をモデルにした小説「鎚一下」を中央公論に発表している。本間俊平の歩んだ影が見られた。

本間俊平が深くキリスト教徒としてこの道を歩むに至るまでの生いたちの概要はこうである。

明治六年、間瀬に生れた俊平は、明治十八年、十二才の時に、村の多くの少年たちと同じように出稼ぎ大工の徒弟となって会津に行った。小学在学時代は、成績がすぐれ、県会から賞を与えられたほどであった。

大工としての技術は次第に上がり、会津から福島、仙台と建築の仕事に従事、明治二十六年には北海道庁に勤務、札幌師範学校建築など、北海道開拓の労働の第一線の一人として活躍した。労働の合い間には、太閤記を写本するなど自学自習をした。北海道では札幌師範の若き校長代理浜幸次郎と生涯変わる事のない交誼を結ぶ交わりをもった。両親を北海道に呼んでの家族そろっての生活も長続きはしなかった。

明治二十七年、二十一才の時失職、職を求めて東京に旅立った。旅費はなく、函館では人夫や車ひきをして船賃をかせぎ青森まで来たが、そこで再び無一文、しかたなく、無銭徒歩旅行を敢行した。

下痢になやまされ、空腹のため汽車から投げ出された弁当のから箱を拾ってみたり、沿線の町々で労働をしながら路銭をかせいではくわしい人生伝記は、数多いこれらの伝記にゆずりたい。

本間俊平が深くキリスト教徒としてこの道を歩むに至るまでの生いたちの概要はこうである。

明治六年、間瀬に生れた俊平は、明治十八年、十二才の時に、村の多くの少年たちと同じように出稼ぎ大工の徒弟となって会津に行った。小学在学時代は、成績がすぐれ、県会から賞を与えられたほどであった。

大工としての技術は次第に上がり、会津から福島、仙台と建築の仕事に従事、明治二十六年には北海道庁に勤務、札幌師範学校建築など、北海道開拓の労働の第一線の一人として活躍した。労働の合い間には、太閤記を写本するなど自学自習をした。北海道では札幌師範の若き校長代理浜幸次郎と生涯変わる事のない交誼を結ぶ交わりをもった。両親を北海道に呼んでの家族そろっての生活も長続きはしなかった。

明治二十七年、二十一才の時失職、職を求めて東京に旅立った。旅費はなく、函館では人夫や車ひきをして船賃をかせぎ青森まで来たが、そこで再び無一文、しかたなく、無銭徒歩旅行を敢行した。

下痢になやまされ、空腹のため汽車から投げ出された弁当のから箱を拾ってみたり、沿線の町々で労働をしながら路銭をかせいでは鉄道線路を東京まで歩きまくったという。ここにも、鉄人本間のおもかげがしのばれるのである。

東京で土木会社に就職、日清戦争のため戦地に派遣された。翌明治二十八年帰国した時には両親が北海道の海岸で変死をしていたという悲惨なものであった。

この俊平の苦痛をいやし「光明をかかげる人」としての人生を歩むきっかけをつくったのが土木会社の先輩クリスチャンと聖書であった。当時を懐古して本間俊平はこういっている。

「私は十二才のときなつかしい故郷を去って一大工の徒弟となりました。知己のない異郷で種々なる困難苦痛世の辛酸をなめつくしたのであります。私程あわれな境遇に生長したものはないとまで思ったのであります。其私に七転八起、世の無情と艱難に打ち勝つ力を御あたえ下さったのは実にイエス・キリスト様であります」。（我が体験を語る昭和五年）

## 東大生への叱咤

昭和五年秋、東京帝国大学小野塚総長に招かれ、「生の真義」と題して講演をした。昭和六年刊の本間俊平の講演集から断片的ではあるが本間のことばを拾ってみよう。

。知識の点からいえば私は皆様の袂から落ちるパンくず程のものも持っていない。しかし私の目から見ると此の最高学府の皆様は大したものを落しているようだ。

。教育も大学も、正しい人生を知り人間の本質を知った時にのみ始めて役に立ち有益となるものだ。

。単なる知識はどうでもよろしい。大切なものは人格である。どうか諸君はこれを得てほしい。今日の世の中は実にかかるものを求めて止まないのである。

。世が不況になれば なる程人格の高い品性の立派な人物を必要とする。然るに大学を出た人が実際はどうであるか。金ばかりほしがってキョロキョロしている人が多いから誰も頼もうとしないのだ。

こうして、俊平五十八年の波らんの人生体験から、学生への叱咤を神キリストの救いを交えながら話したのであった。

## 戦争、暗い谷間の時代

俊平は明治三十五年から約三十年間山口県秋吉台の地で大理石採掘を行なった。俊平夫婦と俊平の教えをしたう迷い悩める青年たちによって大理石が掘り続けられた。ここでの俊平の青年教育は、「温い心で人間の魂を救い上げてやる信仰の教育」として、昭和五年刊、「日本の新学校」（玉川学園刊）の一節の中で全国的に紹介された。

支那事変から太平洋戦争と暗い谷間の時代、キリスト教信者や牧師への弾圧も強まっていった。それでも俊平はキリスト信仰の尊さを説く事はやめなかったが、その時流に適合した説明に変えざるを得なかった。

。キリストは天照大神様の忠実なる使徒であります。

。キリストは神儒仏の思想武士道の観念を廃するためでなくこれをもっとよく完成せんために来たのである。

。忠孝の徳を放棄しようとするのではありません（昭和十八年）。

これらの言葉の中に、きびしい軍国主義下の日本でなおキリスト信仰に基づいた人生訓話を主張する俊平の苦悩が察しられるのである。

昭和二十三年八月、妻の死をおうようにして、故郷の間瀬の地で静かに世を去った。

「少年時代、いつも磯にいることが多かった。蒼海波平のかなた佐渡か島根をのぞみ、あたたかき南風を白帆にうけて松前を指す船を眺め、時に足を藻草多きを海になげて快眠した。ああなつかしの浦浜よ」と故郷を思って語った（昭和二十一年一月、東京にて）その地で明治、大正、昭和と日本の激動の中で「人生の活路」説いた本間俊平が静かにその生涯をとじたのであった。

（村誌編纂調査員、興農館高校教諭中村義隆）



# 米生産調整は百三十ヘクタール

## 四十六年度の実績まとまる

昭和四十六年度の米生産調整の実績がまとまった。減反目標の二一一一～一八〇㌶に対して実績は、一三三・七㌶。七四三㌶で、六三㌶であった。

生産調整の内容は、転作では、いちご、野菜等が五〇㌶。牧草や飼料作物が三七㌶。桃、梅等果樹の永年植物が一二㌶で、転作は全体の七四㌶に達した。

休耕では和納の岩室駅周辺の苗代を始め、津雲田、富岡の苗代が集団による寄託休耕がなされて九㌶。単純休耕は二五・七㌶で、休耕率は二六㌶であった。

米価の据置き、続いて減反。そして天候不良による減収で、昨年は農家には有難くない年でしたが、生産調整を機会にいちごの水田栽培が急速にのびて二七㌶にも及び、米に依存して来た農業から新らしい方向が考え出されています。

各部落毎の実績は一覧表のとおりです。

## 昭和46年度米生産調整実績部落別一覧表

| 部落名 ＼ 要目 | 実施戸数 | 実施水田面積 | 内訳 野菜，飼料作物等の転作 | 果樹等作の転作 | 休耕 |
|---|---|---|---|---|---|
| 金石 池瀬 | 34 | 689 a | 606 a | a | 82 a |
| 岩室 | 47 | 433 | 335 | 18 | 81 |
| 樋曾 | 48 | 526 | 205 | 51 | 270 |
| 栄 | 38 | 286 | 124 | 55 | 107 |
| 橋本 | 35 | 586 | 407 | 130 | 49 |
| 久保田 | 39 | 1,489 | 1,426 | 16 | 47 |
| 猿ヶ谷 | 12 | 160 | 78 | 11 | 71 |
| 南瀬 | 12 | 122 | 96 | 19 | 7 |
| 北内 | 12 | 120 | 81 | | 39 |
| 夏野 | 20 | 421 | 412 | | 9 |
| 西井 | 67 | 913 | 859 | 1 | 53 |
| 潟中 | 43 | 1,030 | 864 | 20 | 146 |
| 白上 | 14 | 422 | 405 | | 17 |
| 西鳥 | 7 | 285 | 141 | 130 | 13 |
| 横島 | 16 | 469 | 191 | 55 | 223 |
| 西根 | 22 | 534 | 490 | 13 | 32 |
| 新越 | 25 | 878 | 777 | 13 | 88 |
| 油谷 | 19 | 459 | 337 | 42 | 80 |
| 高島 | 17 | 122 | 96 | 13 | 13 |
| 畑 | 32 | 437 | 355 | 16 | 66 |
| 小計 | 557 | 10,381 | 8,286 | 602 | 1,493 |
| 原 長曾船 | 21 | 295 | 88 | 4 | 202 |
| 雲 | 24 | 273 | 58 | 12 | 203 |
| 津田 | 10 | 289 | 25 | 1 | 263 |
| 富岡 | 25 | 312 | 69 | 16 | 227 |
| 高橋 | 18 | 230 | 10 | 123 | 96 |
| 和 一区 | 23 | 110 | 15 | 4 | 91 |
| 納 二区 | 34 | 205 | 10 | 12 | 182 |
| 三区 | 18 | 176 | 24 | 47 | 105 |
| 四区 | 26 | 213 | 28 | 40 | 145 |
| 五区 | 28 | 294 | 71 | 155 | 68 |
| 六区 | 33 | 241 | 4 | 26 | 211 |
| 七区 | 16 | 346 | 15 | 179 | 152 |
| 八区 | | 5 | | | 5 |
| 九区 | 2 | | | | |
| 小計 | 278 | 2,989 | 418 | 619 | 1,952 |
| 合計 | 837 | 13,370 | 8,704 | 1,221 | 3,445 |
| 比率 | | | 65% | 9% | 26% |

## 本年の小学校入学児童と各校の学級編制

本年4月小学校へ入学する児童は1月10日現在で岩室小学校53名，和納小学校39名，間瀬小学校14名，計106名の予定であります。各校の在校生と学級編制は別表のとおりになる見込みであります。

| 学年 | | 昭和46年9月1日 現在 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 計 | 昭和47年度（見込） 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 計 | 比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 岩小 | 児童 | 56 | 66 | 72 | 78 | 71 | 83 | 426 | 53 | 56 | 66 | 72 | 78 | 71 | 396 | −30 |
| | 学級 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 12 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 12 | 0 |
| 和小 | 児童 | 62 | 32 | 47 | 47 | 37 | 52 | 277 | 39 | 62 | 32 | 47 | 47 | 37 | 264 | −13 |
| | 学級 | 2 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | 10 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 1 | 9 | −1 |
| 間小 | 児童 | 18 | 12 | 14 | 14 | 11 | 13 | 82 | 14 | 17 | 12 | 14 | 13 | 11 | 81 | −1 |
| | 学級 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | 0 |
| 小計 | 児童 | 136 | 110 | 133 | 139 | 119 | 148 | 785 | 106 | 135 | 110 | 133 | 138 | 119 | 741 | −44 |
| | 学級 | 5 | 4 | 5 | 5 | 4 | 5 | 28 | 4 | 5 | 4 | 5 | 5 | 4 | 27 | −1 |
| 岩中 | 生徒 | 131 | 160 | 170 | | | | 461 | 149 | 131 | 160 | | | | 440 | −21 |
| | 学級 | 3 | 4 | 4 | | | | 11 | 4 | 3 | 4 | | | | 11 | 0 |
| 合計 | 児童生徒 | | | | | | | 1,246 | | | | | | | 1,186 | −65 |
| | 学級 | | | | | | | 39 | | | | | | | 38 | −1 |

# 奨学生を募集いたします

◎奨学生となる資格

(1)岩室村に住所を有する者で、県内の高等学校又は長岡工業高等専門学校及大学に在学する生徒学生に限ります。

(2)人物、学力共に優れ、身体が強健で、学資の支弁が困難であると認められる者でなければなりません。

◎奨学生の義務

必らず卒業後二ケ月から最長五年以内に、一定の割賦金で奨学金を返さなければなりません。しかし進学、就職等一切に制限ありません。

| 区分 | 月額 | 貸与期間 | 募集人員 | 募集回数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 高等学校 | 2,000以内 | 採用の月から卒業迄 | 5 | 年一回 | 定時制含む |
| 大学 長岡工専 | 3,000以内 | 〃 | 5 | 〃 | 夜間部含む |

## オリンピック聖火　札幌に燃ゆ

遠くギリシア国オリンピアの丘で採火された聖火は、幾万の若人に守られ、去る一月九日一時八分本村に到着、吉田町教育長から村長の持つトーチに点火され、第一隊有坂洋君以下十三名の男子中学生から第二隊藤田情美子さん以下十三名の女子中学生へと、感激のうちにリレーされました。

沿道の大歓迎陣の中オレンジ色の炎と白煙をなびかせて和納の街並みを縦断巻町へと引継がれていきました。

## 譲渡所得の贈与税　納税相談（予定）

毎年所得税の申告とともに譲渡所得・贈与税の申告もしなければなりません。税務署で左記日時を計画しております。

2月9日〜2月10日　午前10時〜午後4時

場所　岩室村役場

予定でありますので確定次第該当者に日時が通知されます。

いまから関係資料を整備しておいて下さい。

なお通知された日においでない方は三月、巻税務署へでかけなければなりません。

通知された日に是非おいで下さい。

◎贈与税は46年中にもらった財産の価格の会計が40万円をこえると課税されます。

申告は2月1日から3月15日までとなっておりますので該当される方は早目に自主申告して下さい。